

## ○ 東日本大震災発生から1ヶ月を経過して ー被災地へのメッセージー

人知を越え、想像を絶する、あの東日本大震災の発生から1ヶ月が経過しました。

戦後最大の死者数を数え、未だ行方不明者の捜索が行われ、その数すら把握できない状況が続いています。沿岸のまち・むらは、津波によって根こそぎ流され、まさに跡形もない状態です。

加えて、原子力発電所の大きな事故は、終息の見通しが立たず、応急対応に追われています。このため、多くの周辺住民が見知らぬ土地での避難生活に耐えています。

一方で、この間、被災者を救うための取り組みが、国を挙げて行われています。仮設住宅への入居や学校の再開といった明るい知らせも届き始めました。しかし、まだまだ厳しく、ようやく緒に就いた段階です。特に、復興をリードする責任体制、復旧・復興の計画的推進、地元主体の復興事業の推進が期待されています。

阪神・淡路大震災を経験した兵庫県として、また、関西広域連合の防災分野を担当する県として、広域連合構成府県とともに、震災発生直後から被災地支援に取り組んできました。被災経験や復旧・復興のノウハウを「伝える」とともに、物資の供給や人材の派遣など、多様な分野での支援に励みました。

これからも引き続き、同じ大きな被災を受けた兵庫県であるだけに、被災地の復旧・復興のステージに対応した最大限の支援をしていきます。

被災地の皆さん、兵庫も絶望のなかから立ち上がってきました。復旧・復興への希望を失わずに、ともに歩んでまいりましょう。

平成23年4月11日

関西広域連合長・兵庫県知事 井戸敏三